

在宅医療連携拠点事業成果報告

拠点事業者名：医療法人社団ナラティブホーム

1 地域の在宅医療・介護が抱える課題と拠点の取り組み方針について

- ① 地域包括センターに医療連携をいかに組み込んでいくか。
- ② 多職種連携はこの地域でほとんど進んでいないと思われる。砺波市、厚生センター、医師会、地域包括を巻き込み、誰もが参加できる広範なものにしていく。
- ③ 地域住民に超高齢化社会における医療介護の実態を理解してもらい、エイジング・イン・プレイスを実現していくために何が必要かを考えてもらう。
- ④ 社内スタッフもいま一度創業時の理念を学び直し、またレベルアップのための自主的な勉強会をやってはどうか。
- ⑤ 本来医療情報は個人のものであり、それを本人承諾のもとでデータベースを作成し、必要な情報を、必要な時に引き出せないか。これをオリジナルに開発していく。

2 拠点事業の立ち上げについて

- ① 地域包括にも開かれた地域総合相談外来を開設し、ケアマネ資格を持つ看護師を配置し、受付窓口にする。
- ② ものがたり在宅塾多職種連携編として、資源マップ作成と連動してリストを作成し、開催案内ビラを毎回送付し、70～80人の動員に繋げる。
- ③ ものがたり在宅塾市民編を、2年前に砺波市庄東地区の住民の熱意で地域立の診療所を開設したが、その地域を中心に地元公民館で開催する。
- ④ ものがたり塾ナラティブ編として、スタッフに自主研修と位置付け、それぞれが講師となって発表し、問題提起する。
- ⑤ ソフト作成だが、北海道薬科大学・岡崎教授の

開発した「お薬手帳」が考え方が良く似ており、それを基本に改良する形で東日本メディコムに委託し、受け入れ側ではMSCに委託することで進める。

3 拠点事業での取り組みについて

(1) 地域の医療・福祉資源の把握及び活用

資源マップを作成して把握するとともに、ものがたり在宅塾への参加要請を通じてメンバーも把握、顔の見える関係が構築できた。

(2) 会議の開催(地域ケア会議等への医療関係者の参加の仲介を含む。)

ものがたり在宅塾各編を合計33回開催した。また砺波市リーダー研修会も行い、延べ1,507人が参加した。

本人直接へのDMが効果的であった。

(3) 研修の実施

ものがたり在宅塾多職種連携編9回及びセミナー編4回を通して、嚥下、排尿、認知症、退院支援などのテーマで開催した。

(4) 24時間365日の在宅医療・介護提供体制の構築

開業時より24時間365日体制を構築している。更にその質と量の強化に努めている。

(5) 地域包括支援センター・ケアマネジャーを対象にした支援の実施

同センターでは、ものがたり塾参加を全員参加できるようにダイヤを組んでくれた。砺波市リーダー研修会は、その総集編として、大きな効果があった。

- (6) 効率的な情報共有のための取組(地域連携パスの作成の取組、地域の在宅医療・介護関係者の連絡様式・方法の統一など)

「ナラティブライター」と名づけて、取り組んだ。

予算と時間の制約もあり、完成といかないが、医療介護情報は本来個人のものであり、それに加えて生活価値観も書き込み、情報開示の承諾のうえで、必要な人が必要な情報だけを取り出せるということでオリジナルなソフトに挑戦をして、一応形になった。

今後これを自費で運営し、充実させて効率的連携の足がかりにしていきたい。

- (7) 地域住民への普及・啓発

ものがたり在宅塾市民公開編を合計8回、規模の大きな市民フォーラムを開催して、在宅への啓発を図った。市民公開編には延べ318人、市民フォーラムには263人の参加を得た。熱心に参加してもらい、次年度は自主的に継続していく。

- (8) 災害発生時の対応策

特に手がけることができなかった。

4 特に独創的だと思う取り組み

ものがたり在宅塾として各層に訴求できたことと、時間を置かずにホームページにその要旨をまとめて掲載したこと。また個人の承諾を得て、医療情報に加えて個人の価値観、事前告知をデータとして集約し、各職種が必要に応じて情報をダウンロードできる「ナラティブライター」を開発したこと。

5 地域の在宅医療・介護連携に最も効果があった取り組み

ナラティブをテーマに学際分野で開催したセミナーには、富山大学の教授をはじめ中核病院の医師、看護師など20名近くが参加してくれて、感動的といっているほどの熱いものがあつた。砺波市リーダー研修会も医師8名、保健師5名、看護師12名など66名が参加し、ワールドカフェ方式で文字通り顔が

見える関係が築けた。

6 苦労した点、うまくいかなかった点

医師会へ働きかけたが、形式的なものにとどまり、また反応も乏しかった。

7 これから在宅医療・介護連携に取り組む拠点に対するアドバイス

参加したい意欲を掻き立てる仕掛けみたいなものが大事で、そのためには在宅医療にかける情熱をもって事にあたってほしい。

8 最後に

最後に、この事業はわが法人にとって非常に有益であった。開業3年、危機感いっぱいのスタートで周りを見る余裕がなかったのが、この事業でいろいろな在宅事業が存在することがわかり、また交流が進められ、今後の展開に自信がもてるようになった。これからは自費でもって、この交流を維持していきたい。